



浜松観光ボランティアガイドの会

新入会員現地研修会 「浜松まつり会館」

2月13日(月)の浜松城周辺現地研修に続き「浜松まつり会館」の研修が3月6日(月)に行われました。



熱心に糸切合戦の様子を語る

を新しくし、数も増やすなどリニューアルを行ってきました。手前の町内図案や手ぬぐい・屋台パネルの展示も工夫を凝らしてあります。たこ糸の結び方のコーナーでは浜松まつりの醍醐味である糸切合戦の仕組みについて、また、町内によって揚げ方や戦い方にスタイルがあることなど現場の知識を得ることができました。屋台展示コーナーでは市政70周年を記念して作られた当時の金額で6000万円の屋台はJRの高架をくぐるように高さが決められたことなど、ガイドの参考になる話をたくさん聞くことができました。

今年は4年ぶりに通常の形で浜松まつりが行われる予定で今後詳細な情報が出されるそうです。



青空をバックに命山で新入会員の記念撮影

丘には青空が広がる旅行日和のためか、若い旅行者がチラホラ訪れていました。この日の参加者は25期16名と研修部他8名でした。

まず、中村敏幸館長から「今年度から毎週日曜日の活動が再開します。また、小学校の校外学習も増えることが予想されるので、飯田副館長以下5名のスタッフと連携をとってガイド活動をよろしく願います」と挨拶をいただきました。

研修部からは「浜松まつりは寺社の祭礼とは関係のない市民参加のまつりであるため“まつり”と平仮名表示をされます。まつりに参加されない方にはその楽しみを理解していただくことは難しいかもしれませんが、少しでも味わってもらうため、今日はしっかり勉強していきましょう」とのお話がありました。その後参加者は2班に分かれ、当番になった時の控室のある事務所を確認してから、最初に説明をするビデオコーナーで浜松まつりの様子や町内の組織図(青だすき・赤だすき等の役目)を学び、麻紐の製造工程や規定、屋台の変遷について学習しました。

まつり会館は2021年4月から、大風



風の図案説明

次に、館外に出て命山(津波避難マウント)の説明を受けました。1000名を収容できる高さ13メートルの高台ですが、実際地震等の発生の際はまつり会館のスタッフと連携して、お客様のスムーズな避難を誘導することになることを伺い、眺めの良さを楽しみつつ、周りにある4階以上の高いビルまでの距離が気になりました。

この後の中田島砂丘防潮堤の見学は希望者のみということで、記念写真を撮り今回の研修は終了しました。砂



中田島砂丘入り口にて

“どうする家康 浜松 大河ドラマ館” グランドオープン

ドラマの舞台が浜松に移るタイミングで「どうする家康浜松大河ドラマ館」がプレオープン期間より展示内容を大幅に拡充して3月18日(土)にグランドオープンしました。朝から雨が降る悪い天候の中、多くの人々が並んでオープンを待っていました。開館前の式典では、浜松市立高校の吹奏楽部がテーマ曲を演奏し、鈴木康友市長や名誉館長の徳川家広氏、ドラマで本多忠真役の浪岡一喜さんをゲストに迎えてテープカットし、いよいよオープン。今後ドラマで登場する、お田鶴の方と家康の引間城の攻防や三方ヶ原の合戦などを詳しく紹介。撮影で使用した城門や見張り小屋のセット、大型スクリーンでの映像、松本潤さんの徳川家康、阿部寛さんの武田信玄、関水渚さんのお田鶴の方の甲冑などの衣装、小道具、登場人物を紹介したパネルなどでドラマの世界を体験。



お田鶴の方の甲冑



大河ドラマ館入口

浜松を盛り上げて欲しいと思います。今後もドラマの展開によって展示内容を一部リニューアルしていくそうです。どんな展示内容になるかと楽しみです。また、5月5日(金)には松本潤さんらの騎馬行列の開催が予定されており、全国から注目されています。3月19日(日)のドラマの放映の影響が大きく、お田鶴の方の甲冑の前で足を止め、写真を撮影していました。「甲冑姿が凛々しい」「悲しい結末に泣けた」「可哀想だった」との声が多く聞かれました。

新たに「どうする家康」のデジタル体験コンテンツのコーナーが出来ました。4Kシアターでは、240インチの大型スクリーンで出演者のインタビューやメイキング映像の放映があります。浜松でしか見られない映像でドラマの世界観を感じてください。最後の出演者のサイン色紙コーナーは撮影禁止になっているので注意してください。

18日は約2400人の入場者があり、盛況な初日でした。来年の1月14日(日)までの開催期間中に全国から多くの人々に訪れていただき、大いに

広報部 山田利夫 (西ブロック)

会員の交流広場

静岡の大河ドラマ館訪問

「一富士二鷹三茄子」で家康公が愛した静岡。駿府城外堀にはいつも豊かな水が張られ、周辺が学校・教会等の施設で囲まれた自転車移動の人が目立つ静かで穏やかな町といった印象です。



大河ドラマ館にて

2月28日(火)こちらのドラマ館に行って来ました。快晴の暖かな日でした。駿府城近くにある浅間神社境内に設置されたドラマ館は2階が展示会場で1階では3本のビデオ鑑賞ができました。浅間神社は20年かけての平成の大改修中でしたが、本殿は生まれ変わったばかりで豪華絢爛でした。

スロープを上がっていくとスクリーン上に松本潤さんが「人質時代・大御所時代を過ごした静岡大河ドラマ館へようこそ」とお出迎え下さいました。大河ドラマ制作に携わった方々のメッセージや家康公ゆかりの場所等の説明もわかりやすく、やはり今川を感じました。撮影で実際に使われた今川義元の衣装と純白の元康・瀬名の婚礼衣装の展示があり、家康公を青のイメージにした経緯の説明も楽しかったです。

昨年秋には年に2回だけ一般公開されている家康公が雪斎禅師に学んだという臨濟寺にも行って来ました。「家康公手習いの間」が残っていました。この時は本堂に鉢植えの万年青(おもと)がところ狭しと並んでいて見事でした。コロナ対策で人数制限があり茶室を見ることができなくて残念でしたが、家康公は今川家の菩提寺でも優遇されていたことがうかがえました。

人質とはいえ、今川の貴族社会にも触れ、瀟洒(しょうしゃ)な禅寺で武士道も学び、数多の教養を身につけていった家康公。「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し」と歩んでいった苦悩の礎をドラマ館で改めて感じました。



臨濟寺

南ブロック 金原里枝

新入会員の入会動機



昨年6月に42年間のサラリーマン生活を終了し、その後の人生をいかに過ごすかと模索していたとき、「浜松観光ボランティアの会」の新人養成講座を見つけました。本ボランティアの意義は、「来浜するお客様に浜松の文化や歴史などの魅力を紹介するとともに、地域の人々に郷土の素晴らしさと郷土愛への貢献」とあります。

私自身、振り返って見ると、浜松に42年間住んでいるにもかかわらず、浜松の文化・歴史について、ほとんど知らないことに気がつきました。今回、ボランティアの会に入会することで、会員の方々から浜松の街や文化・歴史等を学ぶ事により、浜松について再認識するとともに、多くの方に浜松の素晴らしさを説明できるスキルを身につけたいと考えています。

今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」です。家康は、最も躍動していた17年間をこの浜松の地に居城を構えていました。そのため、今年は多くの方々が浜松を訪れると思われれます。そこで、ボランティアガイドとして、お客様や地域在住の人々に浜松の歴史や文化を伝えるための一助になればと考えています。

東ブロック 長松谷晃徳



新聞で「案内人募集」の記事を見たことがきっかけです。主人に勧めようと切り抜きました。でも置き放しにされて、それなら私が応募したのです。とは言え歴史なんて知りません。「だんだん覚えるから大丈夫」と励ますように説明され、申し込みました。

家ではよく世界の紀行物の番組を観ています。ちょっとした旅行気分を味わえるのが楽しいのです。その中で街の人に「あの銅像はどんな方なんですか？」などとマイクを向けている場面がよくあります。するとみんなきちんと答えて説明していらっしやる。自分の街のことを誇らしげに！すごいなあと思っていました。日本人が海外の人に自国の歴史を尋ねられてうまく答えられず困ったという話を聞いたこともあります。

今さらですが、ここが学びの場となり浜松のことをよく知って好きになれたら幸いです。皆さんどうぞよろしくをお願いします。

北ブロック 古橋順子



はじめまして。県外出身ですが、いつのまにか浜松在住数十年となりました。最近ウィズコロナということもあってか、県外の友人知人が、浜松に仕事や観光で訪れる機会が増えました。それに伴いオススメの場所等聞かれることも多くなってきました。そこでせっかく来てくれるなら、是非とも浜松を満喫して欲しいと思うものの改めて考えると、自分自身があまり浜松のことを知らないことに気づきました。

そのためいろいろ勉強したいと思いましたが、生来怠け者です。強制的に学ばなければいけない状況に身を置き、精進していきたいと思いボランティアガイドの会に入会させていただきました。

旅行が趣味ですので、各地のガイドさんに様々なことを教わってきました。その楽しさを、今度は浜松に来られる方へお伝えできればと思っています。

諸先輩や同期の方々に教わりながら、少しでもお役に立てる案内人になりたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

東ブロック 鈴木智子

2023年度 会員数

	東ブロック	西ブロック	南ブロック	北ブロック	中ブロック	合計
継続会員(男性)	13名	13名	16名	17名	14名	73名
新入会員(男性)	2名	2名	3名	3名	3名	13名
継続会員(女性)	5名	7名	6名	3名	8名	29名
新入会員(女性)	2名	1名	2名	2名	1名	8名
合計	22名	23名	27名	25名	26名	123名

会員の交流広場

徳川家康と折戸茄子

「一富士、二鷹、三茄子」ということわざがあります。初夢に見ると縁起が良いとも言われています。富士は日本一高い富士山、鷹は鷹狩・愛鷹山、茄子は折戸ナスと言われ、駿河の名物を順に挙げた事が由来とか。このことわざのナスは静岡市三保の折戸で栽培されて家康に献上されていたという記録が残されています。



現在出回っている折戸ナスはテニスボール程の大きさですが、当時家康に献上されていた折戸ナスは親指程の大きさで一個一両であったと言われています。折戸ナスは形が丸く、鋭いトゲがあり、果実は引き締まっていてずっしりと重く、味も濃厚で現在のナスには無い特徴があります。原種であった折戸ナスは栽培が非常に難しく、明治以降80年もの間栽培が途絶えていました。そんな折戸ナスを復活させたのが「JA しみず折戸ナス研究会」。2005年、種を保管していた国の研究機関から種を譲り受け2007年には六軒の農家が栽培し出荷するまでになりました。(収穫時期は一般的なナスよりも早めな5月～7月)
*ナスは元インド原産の熱帯性作物。日本には奈良時代に入って来たと言われている。

○折戸ナスと加茂ナス

家康の子供で駿府城主から紀州徳川の開祖となった徳川頼宣は折戸ナスの促成栽培技術を持ち込んだとされています。その後、紀州ナスとなり、紀州から京都の上加茂神社に奉納されて加茂ナスになったのではないかと考えられています。



静岡県立大学・丹羽康夫博士がこの仮説を検証する為に折戸ナス・紀州ナス・加茂ナスの類縁関係をDNA解析で明らかにしようと考えられました。その結果、「折戸ナス」と「加茂ナス」の間にはハッキリと類縁関係が認められたとの事です。

北ブロック 松本初義

～訂正とおわび～

はままつ案内人会報2月号(247号)3ページに誤りがありましたので訂正しておわびいたします。

1行目	誤：鳥居忠義	⇒正：鳥居忠吉	35行目	誤：関ヶ原の戦い、大阪冬・夏の陣
6行目	誤：雑賀重友	⇒正：雑賀孫市		⇒正：三方ヶ原の戦い、小田原の役
13行目	誤：1599年	⇒正：1618年	44・45行目の文⇒	(大久保治右衛門忠佐)の
28行目	誤：65歳の時、	⇒正：削除		43行目の文に続く
31行目	誤：1547年	⇒正：1542年		

3月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》 23日 木 JTB 歩こう会岡崎 20名 ドラマ館開催期間中は団体ガイド活動は中止しています。	25日 土 愛知ウォーキング城巡り 27名 30日 木 南海国際旅行 13名
《犀ヶ崖資料館》 10日 金 湖西市岡崎中学校 27名 17日 金 磐田市社会福祉協議会 16名 21日 火 トモエ観光 21名	31日 金 道新サービスセンター 20名 《浜松まつり会館》 7日 火 海老名ゆめクラブ連合会 106名

はままつ案内人会報 249号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
 〒430-0946 浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)
 TEL 053-456-1303
 メールアドレス mail@hama-svg.jp
 ホームページ http://www.hama-svg.jp/



家康公ゆかりの地

はままつ案内人

検索